



道徳科の取り組み①

「導入の工夫」

道徳科の取り組み①を開いていただいております。
みなさんは道徳科の導入をどうされていますか？
今回は本校道徳科で「導入の工夫」に取り組んでいるものを紹介します。
では、まず以前私自身が取り組んでいた道徳授業の導入について紹介します。
導入は大きく分けて2パターンに分けて行っていました。

- ① **ねらいとする価値に関わる導入**
- ② **教材に関わる導入**

の2点です。

①では、本時のねらいが 内容項目 B-(9)の「友情,信頼」(中学年)の場合には、例えば「友だちとはどういうものですか?」とねらいとする価値に関わる授業前の児童の考えを問うものです。

子どもたちからは「大切な人!」「いつも遊ぶ人!」と自分のことを考えて発言する姿が期待されます。



②では、教材に出てくる主人公の紹介やその周りの人物との関係性、または難しい言葉などについて教材を読む前に理解しておいた方がよいものを伝えていました。特に低学年でよく行っていました。

道徳科の教材で昔から使われている「二羽のことり」に『みそさざい』という鳥が出てきます。初めて読んだ低学年の子は、この単語にキョトンとする姿が見られます。そこで、導入時に『うぐいす』や『みそさざいの』の紹介を写真等で紹介することで、読む際には納得して読む姿が期待されるのです。



上記の①, ②を導入として行ってよかった点は、

- ①・・・ねらいとする価値と自分を見つめて授業がスタートできる。
本時で学ぶ道徳的価値が導入でわかる。
- ②・・・教材の内容がスムーズに理解できる。

これに対して課題点もあります。続きは次ページへ・・・

課題点

①を何度か行っていると、子どもたちは「今日は友情の学習か。友だちと仲良くすると発表しよう。」という俗に言われている「ネタバレ」となり、子どもたちの中で「この時はこう言おう」と定型文が頭の中で作られてしまうことがありました。

②はあくまで教材における内容理解のための一助であり、自分事におとすことには向いていないように感じました。もちろん前述している通り、低学年では事前に伝えるという意味では効果的だとは感じます。

私が実践してみて、どちらにも共通することは「自分事として考える」には少し物足りないという印象です。

そこで、「自分事として道德の授業を受ける姿が見られるか」を考えた時に、ヒントになったのが「人間理解」でした。

「人間理解」とは道德的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること

【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道德より抜粋】

この人間理解を導入を行うことで、子どもたちが「自分事として考える」のではと考えたのです。

理由として、以前の道德授業で、教材について考えた後で、自己を見つめる場面においてこの「人間理解」について考える時間を設けていました。例えば、「友だちと仲良くしたいと思っているけど、どんな時にできない？」と問うと今まであまり発表していなかった子たちが「けんかした時！！」「初めて会った人とはできない！！」と興奮して発表する姿が見られたのです。正に、自分事として考えている姿でした。



この発問を導入で行ったらどうだろうと考え、前述している①の道德的価値についての理解の後で「どんな時に〇〇をするのは難しい？」と問うようにしました。

すると、①では当たり前のことを発表していた子が、もじもじしながらも「〇〇な時はできません…。」と素直に発表していました。

また、この人間理解をおさえておくことで、教材に出てくる登場人物が葛藤している場合には上辺だけでなく、自分だったらどうするかという「自分事」で考えようとする姿につながるのです。

もしよかったら、導入で「人間理解」を行ってみてくださいね。

※この「道德科の取り組み①」と同時に「道德科学習指導案&実践報告」もアップしています。その導入にもこの「人間理解」をおさえた授業展開にしていますので、ご覧いただけたらありがたいです。